



「土浦・勝田統括センターの新設について」提案を受ける！

1. 実施内容

「土浦統括センター」「勝田統括センター」を新設する。

2. 実施箇所と実施時期

新設箇所	融合する箇所	実施時期
土浦統括センター	土浦営業統括センター、土浦運輸区	2024年10月1日
勝田統括センター	勝田営業統括センター、勝田運輸区	2024年10月1日

※各営業統括センターの管理エリアは各統括センターが踏襲する。

3. その他

- (1) 各統括センターの設置に伴う必要な教育および訓練は実施する。
- (2) 各統括センターの体制等については、別途示す。

4. 主な議論内容

組合: 今回の目的を明らかにすること。

会社: 系統を超えて新たな価値の創造を一層推進していく観点から、社員一人ひとりの成長意欲に応え、活躍フィールドを拡大させてこれまでの役割分担にとらわれない柔軟な働き方を実現していくためである。

組合: 「必要な教育及び訓練は実施する」と記載がある。内容を明らかにすること。

会社: 現在は未定である。職場でワーキンググループ等で議論し、決まり次第示す考えである。

組合: 土浦・勝田営業統括センターとしての成果や課題を明らかにすること。また、営業統括センターから統括センター発足に向けて、社員に求めることを明らかにすること。

会社: 複数駅勤務や複数担務を担える社員ができ、柔軟な働き方を押し進めてきた。また、イベント対応等を行い、融合と連携を行うことが出来た。今後は駅と乗務員区が同じ職場となるため、社員の成長も促す考えである。柔軟な働き方の実現のみならず、お互いの業務を知る機会をつくり、安全議論や地方活性化や収益確保に努めていく考えである。

組合: 水戸統括センター発足前に実施した駅と乗務員区における業務の融合と発足後に実施した業務の融合の内容を明らかにすること。

会社: 乗務員区の一般社員は駅の出改札、管理者は駅の当務副長を実施した。水戸統括センター発足後は駅の管理者が乗務職場の管理業務を行っている。また、イベント等企画業務に従事した。今後は事務業務が企画グループで業務を行う考えである。

組合: 「融合と連携」と会社は述べるが、乗務員が駅で業務する社員は一部に限られている。水戸支社としての融合と連携のイメージを明らかにすること。

会社: 企画業務や除草作業、広報活動等、形にならない業務も実施した。今後も進める考えである。

組合: 参考資料にある日単位での柔軟な働き方について、若手社員から「こんなにやるのか」と萎縮している現実もある。水戸支社版の柔軟な働き方を示すこと。

会社: 今回発出した参考資料はあくまでもイメージである。各職場で伝える際、管理者からわかりやすく伝える。

組合: 統括センター化により、支社の業務はどのくらい削減されたのか明らかにすること。

会社: 組織再編で各職場や首都圏本部に業務移管を実施している。支社と現場で業務を行うこともあるため、支社機能はなくなる。

JR東労組水戸地本は組合員・社員の声を基礎に、今施策に向き合います！